

第 69 回 運営推進会議 議事録

- 【日 時】 令和 8 年 6 月 28 日 (金) 15:00～
- 【場 所】 運営推進会議 高齢者複合施設ほほえみの郷 食堂
- 【出席者】 新川西札幌町内会婦人部副部長 渡辺 ひとみ様
新川西札幌町内会民生委員 巻渕 様 ご都合により欠席
札幌市北区第三地域包括支援センター 佐々木 周平様
小規模多機能型居宅介護つどい(当事業所) 丸山 僚一
※当事業所ご家族様 呼びかけに欠席
※当事業所利用者様 呼びかけに欠席

【議 題】

1) 現状報告

- ・令和 7 年 4 月～令和 8 年 5 月のヒヤリハット・事故報告。現状、予定などの報告
- ※(ヒヤリハット・事故報告～なし)

2) 活動報告

- ・行事実施報告 [令和 7 年 4 月～令和 8 年 5 月]

3) 意見交流「近況報告等」

西札幌町内会(サロン)

- ・三世代交流は無事終了
- ・8 月夏祭り、土日予定

第三地域包括支援センターより

- ・活動報告等の写真等、どんなことを行っているか、わかりやすくイメージしやすい。
- ・広報誌「未来への備え」(札幌市社会福祉協議会)

- ①加齢に伴う体の変化等
- ②からだの変化を知って備えよう
- ③生活のための保険、ご存じですか
- ④一人暮らしの備え(包括によくあるご相談)

「元氣な今こそ、未来への備えを」身近な“困った”は地域包括支援センターへ

・包括での事例検討について～

※包括支援センターでの事例検討など、貴重なお話頂いたので記載させていただきます。

地域包括支援センターの役割

地域包括支援センターは、高齢者の方々が住み慣れた地域でいつまでも暮らせるように必要なサービスを調整したり、様々な方面から支援を行うなど、高齢者の総合相談窓口・支援機関として、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会が、札幌市から委託を受けて事業を運営しています。

包括支援センターの相談元

本人、家族、地域の住民、病院などから主に相談を受ける。

事例検討例～・独居状態で身寄りがいない（後見人問題）

- ・ペットを飼っているがどうしたらよいか
- ・金銭問題等

事例検討① 娘様から相談～

- ・ご本人：ご夫婦・認知症・フレイルが進行中
- ・相談者：別居の娘様
- ・ご相談内容：両親が夫婦とも認知症で在宅生活が不安定で心配（実際、近所に迷惑をかけている）娘様は施設に入ってほしいが、本人たちは「大丈夫」と聞き入れてもらえない。どちらかが病気で入院などあれば、そのきっかけで施設という方向に話が進められるかもしれないが、現在は娘様と本人たちのニーズが合わなく、平行線のままである。

対応～

認知症の方の環境変化は行動・心理症状の変化に影響を及ぼすため、少しずつデイサービスやショートステイなどを利用し外部サービスに慣れていき、状況に合わせ施設入居を勧めていく。

現在の日本では、夫婦ともに認知症がある「認認介護」のようなケースも珍しくなくなってきました。周囲の支えがあれば、夫婦で協力しながら暮らしを続けている例もあり、「必ずしも絶望だけではない」という見方もできますが、一方で、家族様の介護の負担や孤立のリスクが高く、行政や専門職が関わらないと危険な状態になりやすいという側面もあります。

私個人としては、

「良いか悪いか」で判断するよりも

「その夫婦と家族が少しでも楽に、安心して暮らせる形を一緒に探ることが大事」
だと感じます。認知症そのものは病気なので、本人も家族も「頑張りが足りないから」
ではありません。

私も施設で仕事をしているからこそ言えますが、だからこそ、地域包括支援センター
や介護サービスなど、周りの支えを借りることが前提であってよいと思います。

事例の話聞き大変勉強になりました。

管理者：丸山